



ルート プランの概要

メニューバーの [ルート プラン] ドロップダウン リストから、ルート パターン、ルート フィルタ、ルート リスト、ルート グループ、ハントパイロット、ハントリスト、および回線グループを使用して Cisco Unified Communications Manager のルート プランを設定できます。

この章では、次のルート プランについて説明します。

- [自動代替ルーティング \(P.17-2\)](#)
- [ルート プランの概説 \(P.17-5\)](#)
- [ルート グループとルート リスト \(P.17-6\)](#)
- [ルート パターン \(P.17-7\)](#)
- [ハント リスト \(P.17-11\)](#)
- [ハントパイロット \(P.17-11\)](#)
- [コール カバレッジ \(P.17-12\)](#)
- [Closest Match ルーティング \(P.17-16\)](#)
- [スタティック番号分析 \(P.17-17\)](#)
- [特殊文字と設定値 \(P.17-20\)](#)
- [発信側および着信側の変換 \(P.17-29\)](#)
- [発信者 ID および制限 \(P.17-32\)](#)
- [ルート プラン レポート \(P.17-38\)](#)
- [参考情報 \(P.17-39\)](#)

自動代替ルーティング

Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、代替番号を使用して、PSTN または他のネットワーク経路でコールを再ルーティングするメカニズムを提供します。AAR 機能のサブセットとして、Cisco Unified Communications Manager は、ロケーションの帯域幅が不十分であるためにコールをブロックする場合は、PSTN または他のネットワーク経路でコールを自動的に再ルーティングします。AAR を使用すると、発信者が電話を切って着信側にリダイヤルする必要がなくなります。

あるロケーションのデバイスから別のロケーションのデバイスにコールが発信される場合、どちらのロケーションでも、使用可能な最大帯域幅から、そのコールに必要なロケーション帯域幅が差し引かれます。どちらかのロケーションで、そのコールに対してロケーションの帯域幅が不足している場合、Cisco Unified Communications Manager は、コールをブロックせずに、AAR グループのテーブルと終端電話番号の外部番号を使用して、PSTN または他のネットワーク経路でコールを再ルーティングするための代替番号を提供します。Cisco Unified IP Phone により、「Network congestion, rerouting」というメッセージが表示されます (このメッセージは、Cisco CallManager サービスの [サービス パラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] を使用して設定します)。Cisco Unified Communications Manager は、代替番号を使用して、コールを自動的に再ルーティングしようとし、再ルーティングに成功すると、発信者は着信側に接続されます。

AAR は、帯域幅が十分ではない場合に、次のコール シナリオをサポートしています。

- コールが、あるロケーション内の IP Phone の回線または電話番号 (DN) から発信され、別のロケーション内の別の IP Phone の回線または DN で終端する。このシナリオには、複数のロケーションに存在する終端 IP Phone デバイスとのシェアードラインで終端するコール、および Cisco ボイスメール ポートで終端するコールが含まれます。
- あるロケーション内のゲートウェイ デバイスを經由する着信コールが、別のロケーション内の IP Phone の回線または DN で終端する。このシナリオには、複数のロケーションに存在する終端 IP Phone デバイスとのシェアードラインで終端するコール、および Cisco ボイスメール ポートで終端するコールが含まれます。

Cisco Unified Communications Manager は、Automated Alternate Routing Enable サービス パラメータが [True] に設定されている場合に限り、帯域幅が不十分という理由で、PSTN または他のネットワーク経路でコールの再ルーティングを自動的に試行します。PSTN または他のネットワークに接続されているゲートウェイ デバイスにコールをルーティングしようとする場合、Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified IP Phone のステーション デバイスおよびゲートウェイ デバイスに割り当てられているデバイススペースの AAR コーリング サーチ スペースを使用します。Cisco Unified Communications Manager は、回線または DN および Cisco ボイスメール ポートの外部電話番号マスクと電話番号を使用して、コールの再ルーティングに使用される代替番号を導出します。

自動代替ルーティングの例

次のシナリオでは、Richardson AAR グループの回線 /DN 5000 が San Jose AAR グループの回線 5001 をコールします。ロケーションの帯域幅が不十分の場合、PSTN または他のネットワーク経路でコールの再ルーティングが試行されます。AAR グループ Richardson から AAR グループ San Jose にコールをルーティングするには、Cisco Unified Communications Manager が、PSTN または他のネットワークにダイヤルアウトするためのアクセス番号、長距離ダイヤルの要件 (ある場合)、および代替番号を認識する必要があります。Cisco Unified Communications Manager は、AAR ダイアルプレフィックス マトリックス テーブルから情報を取得します。このテーブルは、発信側回線の AAR グループ値と終端側回線の AAR グループ値によって索引が付けられています。表 17-1 に、回線 /DN テーブル内の AAR グループ フィールドのデータ例を示します。

表 17-1 回線 /DN と AAR グループの関連付け

回線 /DN	AAR グループ
5000	Richardson
5001	San Jose
5002	Dallas

Cisco Unified Communications Manager は、発信側の回線 /DN とゲートウェイ デバイスの AAR グループ値、および終端側の回線と Cisco ボイスメール ポートの AAR グループ値に基づいて、AAR ダイアルプレフィックス マトリックス テーブルからプレフィックス番号を取得し、導出した代替番号を変換します。表 17-2 に、AAR ダイアルプレフィックス マトリックス テーブル内のデータ例を示します。

表 17-2 AAR ダイアルプレフィックス マトリックス テーブルの例

発信側の AAR グループ	終端側の AAR グループ	[プレフィックス番号]
Richardson	San Jose	91
Richardson	Dallas	9
Richardson	Richardson	9
San Jose	Richardson	91
San Jose	Dallas	91
San Jose	San Jose	9
Dallas	Richardson	9
Dallas	San Jose	91
Dallas	Dallas	9

Cisco Unified Communications Manager は、AAR ダイアルプレフィックス マトリックス テーブルから取得したプレフィックス番号を、導出した代替番号の前に付加します。番号分析は、変換された番号と AAR コーリング サーチ スペースを使用して、コールを PSTN または他のネットワークにルーティングします。

ゲートウェイが発信側または終端側のデバイスと同じロケーションにある場合、自動代替ルーティングの成功率は非常に高くなります。したがって、発信側デバイスと同じロケーションにあるゲートウェイから PSTN または他のネットワークに発信し、終端側デバイスと同じロケーションにあるゲートウェイから着信するコールが、最良のシナリオです。他のシナリオの場合は、発信側デバイスと発信ゲートウェイの間、および終端側デバイスと着信ゲートウェイの間で、コールがロケーション帯域幅検証の影響を受けやすい状態になります。

Automated Alternate Routing Enable サービス パラメータ

AAR グループの設定に加えて、クラスタ全体の Automated Alternate Routing Enable サービス パラメータが [True] に設定されていることを確認します (このサービス パラメータのデフォルト値は [False] です)。

パラメータは、Cisco CallManager サービスのサービス パラメータの [Clusterwide Parameters (System - CCMAutomated Alternate Routing)] セクションに含まれています。

自動代替ルーティングとハントパイロット

以前の Cisco Unified Communications Manager リリースでは、ボイスメッセージシステムが中央ロケーションにあり、ユーザがリモートロケーションにいる場合で、リモートユーザがボイスメッセージシステムへの接続を試行したものの、WAN リンクの帯域幅が使用可能でないとき、ボイスメッセージシステムへのコールを PSTN 経由で再ルーティングできました。

最新の Cisco Unified Communications Manager リリースでは、AAR はハントパイロットを自動的に処理しません。リモートエージェントの完全修飾電話番号 (DN) が不明であるため、AAR は再ルーティングを開始できないからです。

AAR のハントパイロット処理を可能にする [AAR グループ (AAR Group)] と [外線番号マスク (External Number Mask)] の追加フィールドが、[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウに表示されます。AAR グループのハントパイロット処理を可能にするには、ハントパイロットごとに、[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウでこれらのフィールドを設定する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ハントパイロットの設定」の章を参照してください。

ルートプランの概説

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の内部コールのルーティング、およびプライベート ネットワークまたは PSTN への外部コールのルーティングに対してルートプランを使用しています。

ネットワーク設計は、ルートパターン、ルートフィルタ、ルートリスト、ルートグループ、回線グループ、ハントリスト、およびハントパイロットにより柔軟に行うことができます。ルートパターンは、ルートフィルタと連動して、特定のデバイスにコールを送信したり、特定の番号パターンを組み込んだり、除外したりします。ルートパターンは番号パターンの組み込みと除外に使用します。ルートフィルタは主に番号パターンの組み込みで使用します。ルートリストはルートグループの選択順を制御します。ルートグループはゲートウェイ デバイスの選択順を設定します。

ルートパターンは、ゲートウェイまたはトランクに割り当てるか、ルートグループを含んだルートリストに割り当てることができます。ルートグループは、ゲートウェイとトランクの使用優先順位を決定します。ルートグループにより、使用中のデバイスまたは障害デバイスから、代替デバイスへのオーバーフローが可能になります。

ルートリストは、ルートグループの使用優先順位を決定します。ルートリストを設定する場合、少なくとも 1 つのルートグループを設定する必要があります。1 つまたは複数のルートリストが、1 つまたは複数のルートグループを指すことができます。

ルートフィルタは、ルートパターンにより許可されている特定の番号のルーティングを制限します。タグが、ルートフィルタの中心コンポーネントです。タグは、ダイヤルされた番号の一部に名前を適用します。たとえば、NANP 番号 972-555-1234 には、LOCAL-AREA-CODE (972) タグ、OFFICE-CODE (555) タグ、および SUBSCRIBER (1234) タグが含まれています。



(注)

NANP は、米国とその統治領、カナダ、バミューダ、およびカリブ海周辺諸国での PSTN 用の番号方式です。NANP には、北米で認識されるダイヤル可能な番号が組み込まれています。

ルートパターンは、すべての有効な番号ストリングを表します。Cisco Access Analog Trunk Gateway、Cisco Access Digital Trunk Gateway、Cisco MGCP ゲートウェイ、H.323 準拠のゲートウェイ、およびトランクも、ルートパターンを使用します。Cisco Unified Communications Manager が隣接システムに番号を渡す前に、Cisco ゲートウェイは複雑な制約を使用して一連の番号をルーティングしたり、電話番号を操作したりできます。隣接システムには、central office (CO; セントラル オフィス)、PBX、または別の Cisco Unified Communications Manager システム上のゲートウェイが含まれます。

回線グループは、DN のリストで構成されます。回線グループは、回線グループのメンバーの分散アルゴリズム (Top Down など) を指定します。また、回線グループは、回線グループのメンバーが応答しない、使用中、または使用できない場合に使用するハント オプションも指定します。電話番号は、複数の回線グループに属することができます。

ハントリストは、回線グループの順序付きグループで構成されます。回線グループは、複数のハントリストに属することができます。ハントリストがコールを受け入れるには、ハントリストが少なくとも 1 つの回線グループを指定する必要があります。

ハントパイロットは、ハンティングに使用されるルートパターンを示します。ハントパイロットは、パーティション、番号計画、ルートフィルタ、およびハント転送の設定を指定できます。ハントパイロットは、ハントリストを指定する必要があります。

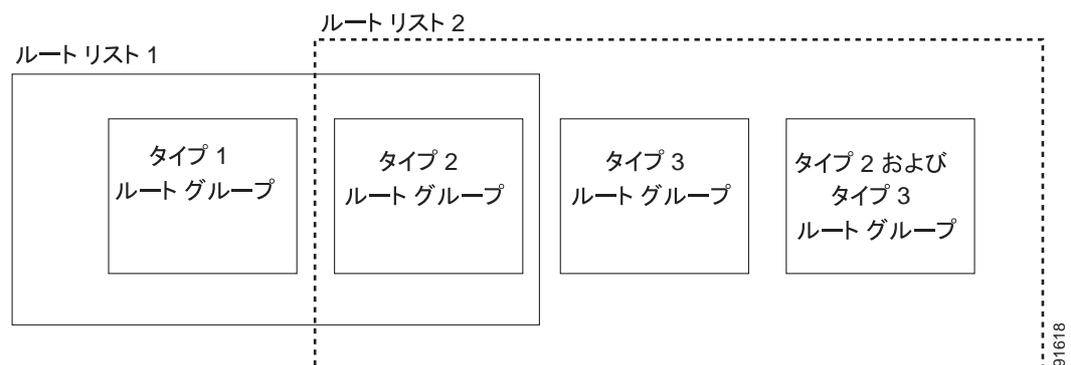
ルートグループとルートリスト

ルートグループには1つまたは複数のデバイスが含まれ、ルートリストには1つまたは複数のルートグループが含まれます。Cisco Unified Communications Manager では、同一のルートグループに組み込めるゲートウェイと同一のルートリストに組み込めるルートグループを制限できます。ルートグループとルートリストの制限のため、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイを次の3つのタイプに分けています。

- タイプ 1 : MGCP QSIG ゲートウェイ、および QSIG 対応のクラスタ間トランク
- タイプ 2 : MGCP 非 QSIG、Skinny、T1-CAS ゲートウェイ、非 QSIG クラスタ間トランク
- タイプ 3 : H.225 および H.323 ゲートウェイ、その他すべてのトランク タイプ

ルートリストには、ルートグループのタイプを混合して組み合わせることができます。ただし、H.225 トランクとタイプ 1 (QSIG) ルートグループを組み合わせることはできません。Cisco Unified Communications Manager では、H.323 または H.225 プロトコル (タイプ 3) を使用するゲートウェイを含むルートグループと QSIG プロトコル (タイプ 1) を使用する MGCP ゲートウェイを含むルートグループを同じルートリストに追加することはできません。図 17-1 に示すように、タイプ 1 のルートグループとタイプ 2 のルートグループの任意の組み合わせ、およびタイプ 2 のルートグループとタイプ 3 ルートグループの任意の組み合わせで、ルートリストを作成できます。

図 17-1 有効なルートリストの例



ルートグループの作成の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートグループの設定」を参照してください。ルートリストの作成の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートリストの追加」を参照してください。



(注)

ルートグループと回線グループを組み合わせることはできず、ルートリストとハントリストは個別のエンティティになっています。したがって、ルートグループはルートリストを構成し、回線グループはハントリストを構成します。既存のルート / ハントリストのメンバーとして回線グループが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager はそのルート / ハントリストをハントリストに移行します。

ルートパターン

Cisco Unified Communications Manager では、内部コールと外線両方のルーティングまたはブロックにルートパターンを使用しています。



(注)

ルートグループとルートリストは、ルートパターン設定の一部です。回線グループとハントリストは、ハントパイロット設定の一部です。ルートパターンとハントパイロットは別々に設定します。ルートグループまたはルートリストをハントパイロットおよび回線グループに追加することはできません。ハントリストをルートパターンに追加することはできません。既存のルートパターン/ハントパイロットがハントリストに関連付けられている場合、Cisco Unified Communications Manager は、そのルートパターン/ハントパイロットをハントパイロットに移行します。

最も単純なルートパターンでは、1桁以上の数字がセットとして指定されています。たとえば、電話番号の 8912 は、ルートパターンとして指定されます。

また、ゲートウェイと Cisco Unified IP Phone は、ワイルドカードを指定する、より複雑なルートパターンも使用できます。ワイルドカードは番号の範囲を表します。たとえば、X は 0 ~ 9 の任意の数字を示します。

コールを OnNet または OffNet として分類するために、管理者は [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで [コールの分類 (Call Classification)] フィールドをそれぞれ [OnNet] または [OffNet] に設定できます。管理者は、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで [デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)] チェックボックスをオンにすることにより、ルートパターンの設定を上書きして、トランクまたはゲートウェイの設定を使用できます。



注意

ゲートウェイに関連付けられているルートパターンがない場合、またはゲートウェイがどのルートグループにも属していない場合、ゲートウェイはコールをルーティングできません。

[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウの [ISDN ネットワーク固有ファシリティの情報要素 (ISDN Network-Specific Facilities Information Element)] セクションでフィールドを設定することにより、ルートパターンを使用して、コールごとにネットワーク固有のサービスまたはファシリティを起動できます。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザがルートパターンをダイヤルするときに、ネットワーク固有のサービスまたはファシリティを使用します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager は、PRI プロトコルゲートウェイだけにネットワーク固有の情報を使用します。H.323 ゲートウェイは、ネットワーク固有のファシリティをサポートしていません。ただし、ダイヤルピアが適宜に設定されている場合、H.323 ゲートウェイは SDN をサポートします。Cisco Unified Communications Manager は、ベアラ機能を Speech for the ACCUNET サービスとしてコーディングします。

ルートパターンの使用方法

ルートパターンは、Cisco Access Gateway に直接割り当てるか、柔軟性を高めるためにルートリストに割り当てることができます。たとえば、[図 17-2](#) では、Cisco Access Digital Gateway 1 が、一致するルートパターンがダイヤルされるときに、PSTN に発信コールをルーティングするための第 1 選択肢として指定されています。



ヒント

ゲートウェイにルートパターンの指定がない場合は、PSTN または PBX にコールを発信することはできません。ゲートウェイ上の個々のポートにルートパターンを割り当てるには、ルートリストとルートグループをそのポートに割り当てる必要があります。

[図 17-2](#) では、Cisco Digital Gateway に対してルートパターンを使用する場合の効果を示しています。この例では、ルートパターンがルートリストに割り当てられ、そのルートリストは 1 つのルートグループに関連付けられています。ルートグループは、アベイラビリティに応じて選択されるデバイスのリストをサポートします。

システムが最初にコールをルートリストのメンバーに提供する場合、Cisco Unified Communications Manager は「帯域幅の範囲外です」、「ユーザがビジーです」、および「未割り当ての番号です」以外のすべての原因コードで再ルーティングします。「帯域幅の範囲外です」、「ユーザがビジーです」、および「未割り当ての番号です」の原因コードで再ルーティングするかどうかは、Cisco CallManager サービスの関連するサービスパラメータの値によって決まります。クラスタ全体のパラメータ（ルートプラン）グループには、Stop Routing on Out of Bandwidth Flag、Stop Routing on User Busy Flag、および Stop Routing on Unallocated Number Flag というサービスパラメータが含まれています。各サービスパラメータを [True] または [False] に設定できます。

ルートリストがトランクにロックされた後、再ルーティングは行われません。エンドポイントのメディア接続時間および Stop Routing サービスパラメータによって、ルートリストがいつ次のルートグループのハンティングを停止するかが決まります。メディアネゴシエーションが開始されると、ルートリストまたはハントリストは再ルーティング機能を失います。

ルートリストを通じてリモートサイトにルーティングされているコールが解放され、Q.931 原因コードが Cisco Unified Communications Manager に送信されたときのルーティングの動作は、Cisco CallManager サービスの Stop Routing on Q.931 Disconnect Cause Code サービスパラメータによって決まります。メッセージに含まれている原因コードがこのパラメータで指定された原因コードと一致した場合、ローカルの Cisco Unified Communications Manager はコールのルーティングを停止します（ルートリストに含まれている次のデバイスにコールが送信されません）。



(注)

ゲートウェイにルートパターンが関連付けられている場合に、そのゲートウェイのリソースがすべて使用されていると、コールのルーティングは行われません。

図 17-2 Cisco Digital Gateway 用のルート プランの要約図

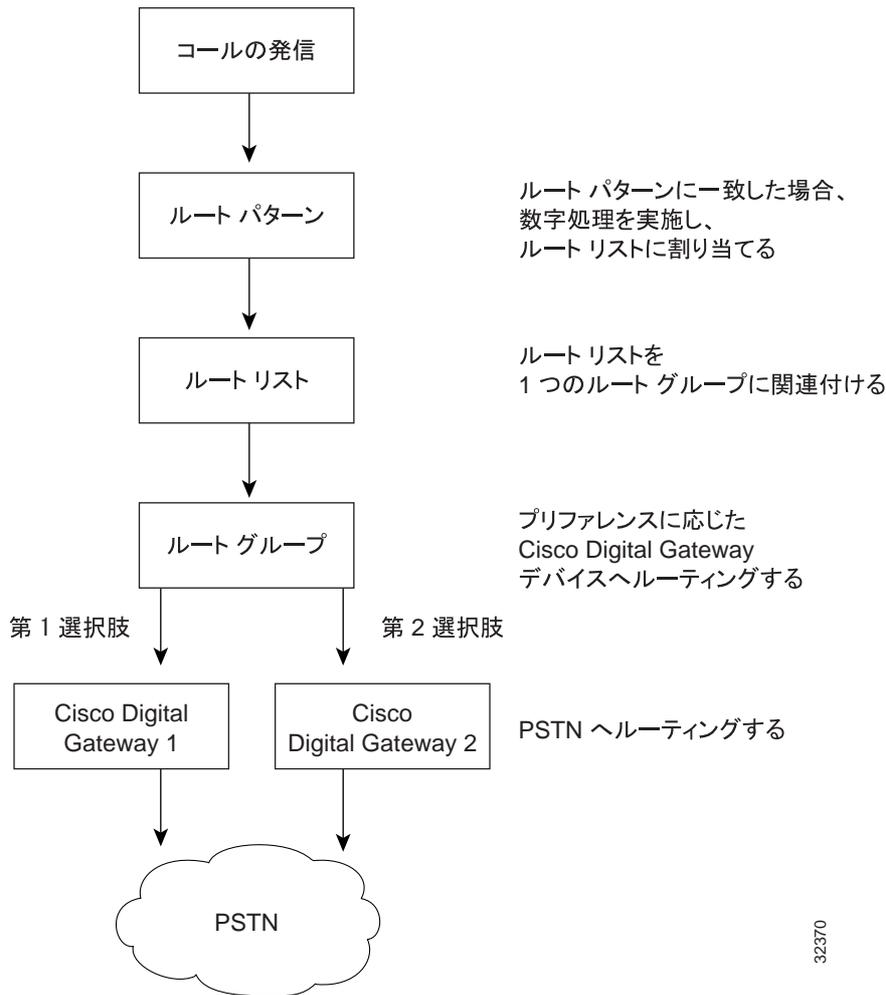
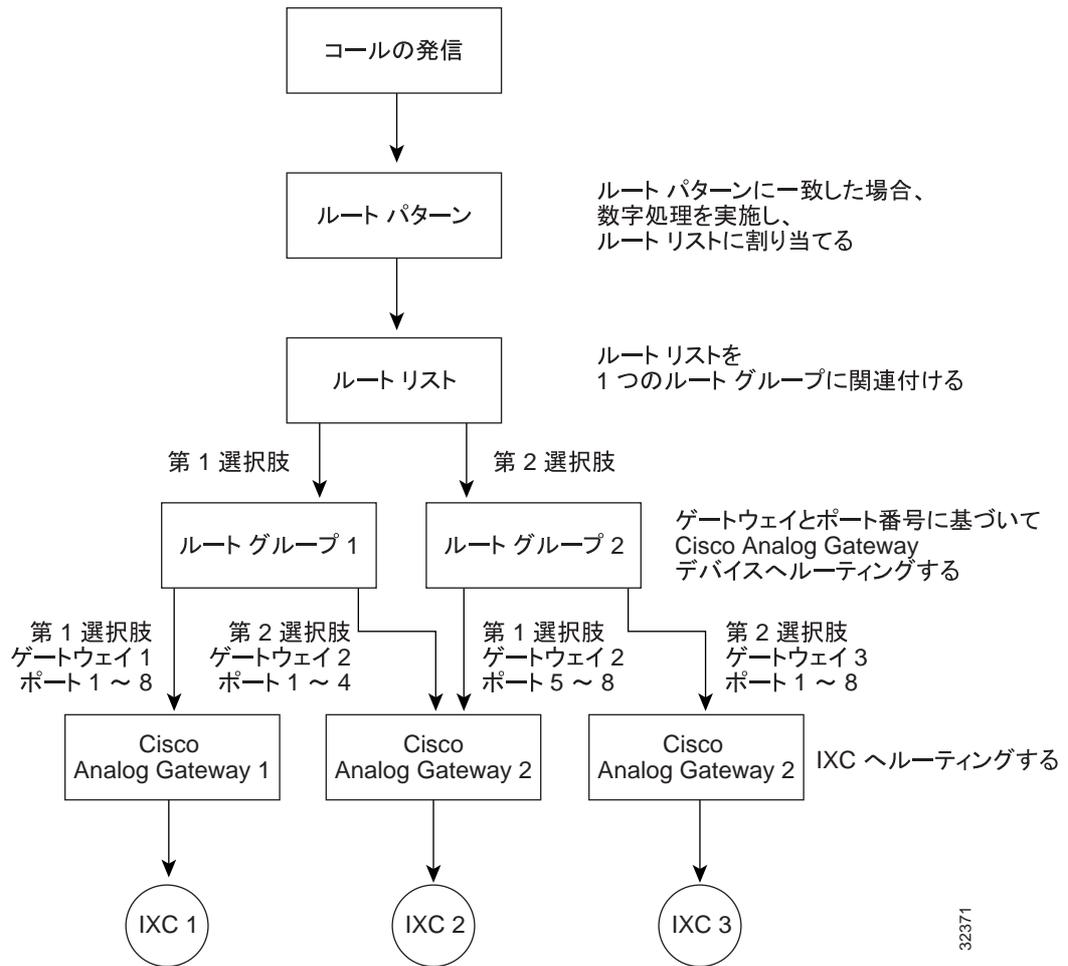


図 17-3 では、Cisco Analog Gateway に対してルート パターンを使用する場合の効果を示しています。この例では、ルート パターンがルート リストに割り当てられ、そのルート リストは 2 つのルート グループに関連付けられています。ルート グループ 1 は、ゲートウェイ 1 上のポート 1 ~ 8 に関連付けられ、これらのポートは、すべてのコールを中継キャリア 1 (IXC 1) にルーティングします。ルート グループ 1 は、ゲートウェイ 2 上のポート 1 ~ 4 にも関連付けられています。ルート グループ 2 は、ゲートウェイ 2 上のポート 5 ~ 8、およびゲートウェイ 3 上のすべてのポートに関連付けられています。

各ルート グループは、グループ間のアベイラビリティに応じて選択されるデバイスをサポートしています。ルート グループ 1 では、第 1 選択肢のゲートウェイ上のポート 1 ~ 8 がビジーまたは使用停止中である場合、コールは、第 2 選択肢のゲートウェイ上のポート 1 ~ 4 にルーティングされます。ルート グループ 1 のすべてのルートが使用できない場合、コールはルート グループ 2 にルーティングされます。ルート グループ 2 では、第 1 選択肢のゲートウェイ上のポート 5 ~ 8 がビジーまたは使用停止中である場合、コールは、第 2 選択肢のゲートウェイ上のポート 1 ~ 8 にルーティングされます。どちらのルート グループのゲートウェイ上のポートも使用できない場合、コールは全トランク ビジー トーンにルーティングされます。

図 17-3 Cisco Analog Access Gateway 用のルートプランの要約図



32371

回線グループ

回線グループには 1 つまたは複数の電話番号が含まれます。Top Down、Circular、Longest Idle Time、Broadcast などの分散アルゴリズムが回線グループに関連付けられます。また、回線グループには [RNA 予約タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] も関連付けられています。

次に、回線グループのメンバーについて説明します。

- アイドル状態のメンバーとは、どのコールも扱っていないメンバーである。
- 使用可能なメンバーとは、アクティブ コールを扱っているが、新しいコール (複数も可) を受け入れることができるメンバーである。
- 使用中のメンバーは、どのコールも受け入れることができない。

回線グループの設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「ルートグループの設定」を参照してください。

電話番号は、複数の回線グループに属することができます。

ハントリスト

ハントリストは、回線グループの順序付きグループで構成されます。回線グループは、複数のハントリストに属することができます。ハントパイロットは、ハントリストに関連付けられます。ハントリストは、複数のハントパイロットに関連付けることができます。

ハントリストの設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ハントリストの設定」を参照してください。



(注)

ハントリストとルートリストは別々に設定します。既存のルート/ハントリストのメンバーとして回線グループが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager はそのルート/ハントリストをハントリストに移行します。



(注)

TOD 設定は、回線がハントリストに含まれている場合に有効になります。この設定は、そのハントリスト内の回線ではなく、ハントパイロットにだけ適用されます。

ハントパイロット

ハントパイロットは番号のセットで構成されます。ハントパイロットは、ハンティングに使用されるルートパターンのリストで構成されます。ハントパイロットは、パーティション、番号計画、ルートフィルタ、およびハント転送の設定を指定できます。ハントパイロットは、ハントリストを指定する必要があります。

ハントパイロットの設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ハントパイロットの設定」の章を参照してください。



(注)

ハントパイロットとルートパターンは別々に設定します。既存のルートパターン/ハントパイロットがハントリストに関連付けられている場合、Cisco Unified Communications Manager は、そのルートパターン/ハントパイロットをハントパイロットに移行します。



(注)

TOD 設定は、回線がハントリストに含まれている場合に有効になります。この設定は、そのハントリスト内の回線ではなく、ハントパイロットにだけ適用されます。

コールカバレッジ

コールカバレッジ機能には、Cisco Unified Communications Manager の次の機能が含まれています。

- コールの発信者が内部ユーザであるか外部ユーザであるかに基づいて、転送を別々に設定できる。P.17-13 の「内部コールと外部コール」を参照してください。
- ハンティングは、個人転送をサポートしている。P.17-13 の「個人プリファレンス」を参照してください。
- ルートパターンとハントパイロットは、2つの異なる機能に分離されている。

ハンティングとコール転送

ハンティングの概念は、コール転送の概念とは異なります。ハンティングでは、Cisco Unified Communications Manager がコールを 1 つまたは複数の番号リストに送り届けることができます。このような各リストは、アルゴリズムの固定セットから選択されるハンティング順序を指定できます。コールがこれらのリストからハントパーティに送り届けられ、そのパーティが応答できないまたは使用中の場合、次のハントパーティに対してハンティングが再開されます（次のハントパーティは、現在のハントアルゴリズムによって異なります）。このように、ハンティングでは、試行されるパーティの Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) 設定も、Call Forward Busy (CFB; 話中転送) 設定も、Call Forward All (CFA; 不在転送) 設定も無視されます。

コール転送では、着信側が応答できないか使用中で、かつハンティングが実行されない場合に、コールを送り届ける（転送もリダイレクトも送り届けるに相当する用語）方法について、詳細に制御できます。たとえば、回線の CFNA 設定がハントパイロット番号に設定されている場合、その回線へのコールが応答されないと、そのコールはハントパイロット番号に転送されるため、ハンティングが開始されます。

ハンティングに失敗した場合（つまり、リスト内のハント番号をすべて試したかタイムアウトのため、どのハントパーティも応答せずにハンティングが終了した場合）、Cisco Unified Communications Manager はコールをリダイレクトする機能を提供します。この最終リダイレクションは、使用される場合、コール転送アクションで構成されます。したがって、[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウに似たコール転送設定概念が含まれています。

コールハンティングの例

ハンティングは転送とは異なりますが、多くの場合、ハンティングはハントパイロット番号に転送されるコールとして開始されます。コールカバレッジ機能は、ハンティングを拡張し、ハンティングが実行し尽くされたまたはタイムアウトになった後の最終転送を可能にします。

ハンティングを起動する一般的なコールは、次のフェーズで構成されます。

1. コールが本来の着信側に送り届けられます。
2. コールがハンティングに転送されます（たとえば、本来の着信側回線の Call Forward All (CFA; 不在転送)、無応答時転送 (CFNA)、または話中転送 (CFB) 設定のため）。
3. コールは、各グループのプロビジョニングされたアルゴリズムに従い、プロビジョニングされたハントグループを介してハンティングを実行します。ハンティングは、成功するか（ハントパーティが応答した場合）、実行し尽くされるか（すべてのハントパーティが試行されたが、どのパーティも応答しなかった場合）、タイムアウトになります（すべてのパーティが試行される前に [最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer)] に指定されている時間になり、試行されたどのパーティも応答しなかった場合）。

この例では、ハンティングが成功しない場合を想定します。

4. 何らかの形で最終転送が設定されている場合、コールは次の宛先に転送されます。最終転送が設定されていない場合、コールは解放されます。

最大ハント タイマー (Maximum Hunt Timer)

[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウの [最大ハント タイマー (Maximum Hunt Timer)] フィールドでは、管理者が、ハントリストを介したハンティングの時間を制限する値 (秒単位) を入力できます。指定した時間を経過してもハンティングが成功しなかった場合、コールはボイス メッセージ システム、特定の電話番号、または個人処理 (設定されている場合) に転送されるか、解放されます。

[最大ハント タイマー (Maximum Hunt Timer)] の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ハントパイロットの設定」の章にあるフィールドの説明を参照してください。

Show Line Group Member DN in finalCalledPartyNumber CDR Field サービス パラメータ

Cisco CallManager サービスのこのサービスパラメータでは、コール詳細レコード (CDR) の最終的な着信側番号を、ハントパイロット番号へのコールをピックアップする回線グループ電話番号 (DN) とハントパイロット番号のどちらにするかを指定できます。

このサービスパラメータの設定の詳細を示したマニュアルについては、『Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーションガイド』を参照してください。

内部コールと外部コール

コールの発信者が内部ユーザであるか外部ユーザであるかに基づいて、転送を別々に設定できます。この区別は、Call Forward Busy (CFB; 話中転送)、Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送)、および Call Forward No Coverage (カバレッジなし時転送) の場合に適用されます。

個人プリファレンス

ハンティングは、実行し尽くされたかタイムアウトになったときに、ボイスメッセージシステム、特定の電話番号、または個人処理 (本来の着信側に基づく) に最終的な転送処理を提供する機能をサポートしています。コールが内部コールであるか外部コールであるかに基づいて、別々の最終転送処理を提供する機能も用意されています。ハンティングは、ハントパイロット番号ごとに別々に設定できる [最大ハント タイマー (Maximum Hunt Timer)] をサポートしています。

[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] の設定では、[個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] フィールドと [着信先 (Destination)] フィールドを使用して、コールをハントパイロットに転送した本来の着信側番号の Call Forward No Coverage (CFNC; カバレッジなし時転送) 設定を使用可能にすることができます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ハントパイロットの設定値」の項を参照してください。

ハントグループからのログアウト

ハントグループからのログアウト機能を使用すると、SCCP 電話機および SIP 電話機のユーザが、各自の電話機をログアウトできます。ログアウト後は、その電話回線が関連付けられた回線グループに属している電話番号にコールがルーティングされても、受信しなくなります。

電話機に関連付けられた回線グループ宛のコールではない着信コールについては、電話機のステータスにかかわらず、電話機の呼び出し音は通常どおりに鳴ります。

電話機にログイン状態が表示されるため、ユーザは、自分が回線グループにログインしているかどうかを電話機を見て確認できます。

システム管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)] チェックボックスを使用して、自動的にハントグループにログインするように電話機を設定できます。デフォルトでは、このチェックボックスはすべての電話機でオンになります。ユーザは、ハントグループへのログインおよびハントグループからログアウトには [ハント] ソフトキー (P.17-14 の「ハントグループからのログアウトのソフトキー」を参照) を使用します。

SIP 電話機の場合、ハントグループからのログアウトには次の制限事項があります。

- SIP Phone (7906、7911、7941、7961、7970、および 7971) がハントグループにログインしていて、Call Forward All (CFA; 不在転送) がアクティブになっている場合、コールは SIP 電話機に配信されます。
- SIP Phone 7940 および 7960 がハントグループにログインしていて、不在転送がアクティブになっている場合、その電話機はスキップされ、回線グループ内の次の電話機で呼び出し音が鳴ります。
- SIP Phone 7940、7960、およびサードパーティ製の SIP 電話機では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用してハントグループにログイン (またはハントグループからログアウト) できますが、ソフトキーはサポートされません。
- SIP Phone 7940、7960、およびサードパーティ製の SIP 電話機では、ステータス行に「ハントグループからログアウト」が表示されません。
- SIP Phone 7940、7960、およびサードパーティ製の SIP 電話機では、ハントグループ ログオフ通知トーンが設定されているかどうかにかかわらず、このトーンは再生されません。

ハントグループからのログアウトのソフトキー

Cisco Unified Communications Manager では、[ハント] ソフトキーが提供されます。このキーを使用すると、電話機のユーザが、その電話機の電話番号が属しているすべての回線グループから電話機をログアウトできます。ユーザは、[ハント] ソフトキーを使用してログインとログオフを切り替えます。この機能を電話機で有効にした後は (ログオフ)、この電話機が関連付けられている回線グループにコールが到達した場合、そのコールはこの電話機をスキップして、ハントリスト内の次の電話機に直接移動します。

ハントグループからのログアウト機能は、デバイス単位で実行されます。このため、ユーザが [ハント] ソフトキーを押してこの機能を有効にした場合、電話機は、関連付けられているすべての回線グループからログオフします。複数の回線グループに属する電話番号を持っている電話機では、[ハント] ソフトキーを押すと、その電話機は関連付けられているすべての回線グループからログアウトします。電話機のデフォルトの状態は、ログオンです。

[ハント] ソフトキーは、標準のソフトキー テンプレートには追加されませんが、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで新しいソフトキー テンプレートを設定するときに、[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウで、[接続時]、[オフフック]、および [オンフック] 状態で選択可能なソフトキーとして表示されます。[ハント] ソフトキーは、電話機で使用されるソフトキー テンプレートに管理者が [ハント] ソフトキーを追加した後、電話機が [接続時]、[オフフック]、および [オンフック] 状態になると電話機に表示されます。ソフトキーのラベルは、必要に応じて各種の言語に翻訳されます。

デバイスが現在使用している [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] で新しいソフトキーが選択された場合は、ソフトキーが押されてログオフが実行されたとき、プロンプト ステータス メッセージにこの機能のステータスが表示されます。プロンプト ステータス メッセージは、必要に応じて各種の言語に翻訳されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでソフトキー テンプレートを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」の章を参照してください。

Hunt Group Logoff Notification サービス パラメータ

Cisco CallManager サービスの [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (Device - Phone)] セクションにある Hunt Group Logoff Notification サービス パラメータは、回線グループに着信したコールが電話機に到達したとき、電話機の現在のステータスがログオフである場合に、呼び出し音を鳴らすかどうかのオプションを提供します。デフォルト値は [None] に指定されています。電話機の呼び出し音は鳴りません。

シェアライン以外の動作

電話機が回線グループからログアウトし、その電話機の内線番号が共有されていない場合、回線グループは回線グループ内のその電話番号の呼び出し音を鳴らしません。回線グループが通常どおりにコールをその電話番号にルーティングするとき、コール処理はその電話番号をスキップし、その電話番号が回線グループに属していないものとして動作します。

シェアラインの動作

ハントグループからのログアウト機能は、デバイス単位で実行されます。このため、ユーザが電話機をログアウトさせたとき、この機能はログアウトした電話機だけに適用されます。シェアラインの電話番号 (DN) が含まれている回線グループにコールが着信した場合、動作は次のようになります。

- 該当の DN を共有する電話機がすべてログアウトしている場合、その DN については呼び出し音が鳴りません。
- 該当の DN を共有する電話機が 1 台でもログインしている場合は、その DN について呼び出し音が鳴ります。
- 電話機がログアウトした場合、デフォルトでは呼び出し音がオフになります。Cisco Unified Communications Manager に用意されているシステム パラメータを設定すると、ログオフしているハントグループメンバーにコールが着信した場合に、別の呼び出し音を再生することができます。

Closest Match ルーティング

Closest Match ルーティングとは、電話番号に最も近いルートパターンを使用してコールをルーティングするプロセスです。Cisco Unified Communications Manager で複数のルートパターンと一致する電話番号が検出された場合、Closest Match ルーティングを使用して、その番号に最も近いルートパターンを判別し、そのルートパターンを使用してコールを送信します。

2 つの設定済みルートパターンが、別々のパーティションで同一番号のアドレスと完全に一致する場合、Cisco Unified Communications Manager は、そのパーティションがコーリング検索スペース内でリストされている順番に基づいて、ルートパターンを選択します (Cisco Unified Communications Manager は、コーリング検索スペース内の先頭に表示されるパーティションから、ルートパターンを選択します)。

2 つの設定済みルートパターンが、1 つのパーティションで同一番号のアドレスと完全に一致する場合、Cisco Unified Communications Manager は任意にどちらかのパーティションを選択します。このような完全一致が生じる状況は例外であるため、その理由を説明します。

複数のルートパターンが 1 つの番号に一致することがあります。たとえば、番号 8912 は、8912、89XX、および 8XXX のどのルートパターンとも一致します。

この例では、ルートパターン 8912 は 1 つのアドレスと完全に一致します。ルートパターン 89XX は、8912、およびその他の 99 個のアドレスと一致します。また、ルートパターン 8XXX は、8912、およびその他の 999 個のアドレスと一致します。

ユーザが 8913 をダイヤルする場合、そのコールのルーティング方法はさまざまです。直前の例を使用すると、このアドレスは、ルーティングパターン 89XX および 8XXX だけと一致します。89XX が一致するアドレスの範囲は、8XXX より狭いので、Cisco Unified Communications Manager は、ルーティングパターン 89XX に割り当てられるデバイスにそのコールを送信します。

ルートパターンでの @ ワイルドカードの使用方法

ルートパターン内で @ ワイルドカード文字を使用すると、単一ルートパターンをすべての NANP 番号と一致させることができますが、他にも次の考慮事項があります。

数字 92578912 は、ルートパターン 9.@ と 9.XXXXXXX の両方と一致します。どちらのルートパターンも、同じようにアドレスと一致するように見える場合であっても、実際には、9.@ ルートパターンが Closest Match になります。@ ワイルドカード文字では、さまざまなルートパターンが含まれます。そのルートパターンの中の 1 つが [2-9][02-9]XXXXXX です。番号 2578912 は、XXXXXXX よりも [2-9][02-9]XXXXX に近いので、9.@ ルートパターンが、ルーティング用の Closest Match になります。

ルートパターンを設定する際には、次のことを考慮してください。

- ルーティングパターンで @ が使用されている場合、# は、国際電話のダイヤル終了文字として自動的に認識されます。@ を使用しないルーティングパターンの場合、ダイヤル終了を知らせる # 文字を使用できるようにするには、ルーティングパターンに # を組み込む必要があります。
- ルートパターンにアットマーク (@) が含まれている場合、[番号の削除 (Discard Digits)] フィールドには DDI を指定します。

P.17-20 の「[特殊文字と設定値](#)」には、DDI の一覧、および電話番号に各 DDI を適用した結果についての説明があります。

数字破棄命令

discard digits instruction (DDI; 数字破棄命令) は、電話番号の一部を削除してから、その番号を隣接システムに渡します。数字列の一部を削除する必要があるのは、たとえば、PSTN にコールをルート指定するのに外部アクセスコードが必要であるにもかかわらず、PSTN スイッチがそのアクセスコードを要求しない場合です。



(注) @ を使用しないパターンに対して使用できる DDI は、<None>、NoDigits、および PreDot だけです。

スタティック番号分析

スタティック番号分析 (DA) を使用すると、電話機が登録されているかどうかにかかわらず、デバイスが DA テーブルに残り、その電話番号がコールを確実に代行受信できます。

設定のヒント

- 管理者は、Cisco Unified Communications Manager Assistant がフェールオーバーにトランスレーションパターンを使用しないことに注意する必要があります。その代わりに、管理者は、すべての Unified CM Assistant 障害ルートポイントのトランスレーションパターンにあったデータで Call Forward No Answer (CFNA; 無応答時転送) を設定し、これらのルートポイントを削除する必要があります。

番号分析プロセスが、システムの初期化中に、データベースに設定されているパターンでスタティック番号分析エンジンを構築します。この番号分析エンジンは、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のパターンの伝搬を減らし、Cisco Unified Communications Manager をさらにスケーラブルにします。

以前のリリースでは、個々のデバイス制御プロセスがデータベースからパターン情報を読み取り、パターンを番号分析プロセスに動的に登録して、番号分析エンジンを構築していました。各パターンは、番号分析エンジン内に制御プロセス ID へのマッピングを持っていました。パターンの制御プロセス ID は、関連付けられているデバイスがリセットされるか、Cisco Unified Communications Manager サーバが再起動すると、動的に変更されました。制御プロセス ID が変更されると、番号分析エンジンを動的に変更して、その内容を他の Cisco Unified Communications Manager サーバに伝搬する必要がありました。コール処理中、番号分析エンジンは、一致したパターンの制御プロセス ID を戻しました。

Cisco Unified Communications Manager の初期化中に、番号分析プロセスがデータベースから直接パターン情報を読み取り、スタティック番号分析エンジンを構築します。スタティック番号分析エンジンでは、各パターンが、コールできるエンドポイント名へのマッピングを持っています。そのマッピングは、データベース内のパターンの NumPlanPkID で、Cisco Unified Communications Manager に設定されているパターンへの一意な識別子です。スタティック番号分析エンジンは、パターンの制御プロセス ID を保持しなくなりました。

スタティック番号分析は、デバイス マネージャへの変更と統合され、既存のすべての機能をサポートします。デバイス マネージャには、NumPlanPkID がパターンの制御プロセス ID への 1 対 1 のマッピングを示すテーブルが含まれています。番号分析は、コールを処理するときに、デバイス マネージャに問い合せて、一致するパターンの制御プロセス ID を取得します。

機能の説明

Cisco Unified Communications Manager には、コールパーク、コール転送、ミーティング会議、デバイス、変換、コールピックアップグループ、ルート、およびメッセージ受信というパターンタイプがあります。デバイス、変換、およびルートというパターンタイプは、スタティックパターンを示します。番号分析プロセスは、Cisco Unified Communications Manager の初期化中に、これらのパターンを直接読み取り、スタティック番号分析エンジンに挿入します。他のパターンタイプ（コールパーク、コール転送、ミーティング会議、コールピックアップグループ、およびメッセージ受信）は、代行受信パターンで、ダイナミックパターンのままです。個々の制御プロセスは、データベースからパターン情報を読み取ります。次に、登録メッセージを介して、そのパターン情報をスタティック番号分析エンジンに挿入するよう、番号分析プロセスに対して要求します。

データベース内でレコードが変更されるまで、すべてのスタティックパターンは変更されないままです。データベース変更通知がクラスタ内のサーバにブロードキャストされるため、スタティックパターンは伝搬の必要がありません。ダイナミックパターンは、依然として既存の伝搬および更新メカニズムを使用して、スタティック番号分析エンジンを更新します。

パターンタイプに関係なく、スタティック番号分析エンジン内の各スタティックパターンは、データベースの NumPlan テーブル内の PkID へのマッピングを持っています。デバイスがパターンをデバイスマネージャに登録すると、デバイスマネージャ内で同じ PkID が保存されて制御プロセス ID にマッピングされます。コールの処理中にスタティック番号分析エンジン内で一致するパターンが見つかったら、番号分析とデバイスマネージャの間の新しいインターフェイスが制御プロセス ID を取得します。

注意 1

現在の Cisco Unified Communications Manager リリースでは、変更通知が失われる可能性があります。この損失により、他のデバイスが、Cisco Unified Communications Manager に登録されているデバイスに到達できなくなることがあります。この問題のトラブルシューティングについて、次に説明します。

この問題は、あるパーティションに属するデバイスに割り当てられた DN が、他のデバイスのコーリング検索スペースに含まれていない場合に、最も多く発生します。他のデバイスのコーリング検索スペースに、その DN のパーティションが含まれている場合は、別の原因が考えられます。たとえば、DN がデバイスのためだけに変更され、データベースから Cisco Unified Communications Manager への変更通知が失われた場合などが考えられます。Cisco Unified Communications Manager リリース 4.0 以降では、デバイスをリセットしてもこの問題を解決できない場合があります。

この問題を解決するには、DN を削除してシステムに再度追加します。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウおよび [ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウでデバイスから DN を削除します。DN を削除した後、パーティション、パターン、および他の情報を同様に設定して DN を再度追加します。新しい DN を Cisco Unified Communications Manager に再度追加すると、問題が解決されます。

同様の問題が存在する場合は、ルートパターンおよびトランスレーションパターンに同じ対処法を適用できます。



ヒント

パターンを削除する前に、すべての設定を書き留めておいてください。

注意 2

スタティック番号分析は、いくつかのアプリケーションの設定を使用不可にします。そのアプリケーションとは、同じコーリングサーチスペース内の重複パターンのプロビジョニングに依存するアプリケーションです。たとえば、CTI アプリケーションがパーティション A 内のパターン 5000 であり、特定の電話機がパーティション B 内のパターン 5000 であるとします。以前のリリースでは、CTI ルートポイントがダウンしている場合、電話機の呼び出し音が鳴ります。ただし、スタティック番号分析では、発信者にビジー トーンが聞こえます。この制限は、アプリケーションの障害が処理されないことを意味します。

管理者は、通常、Call Forward No Answer（無応答時転送）および Call Forward On Failure（CTI 障害時転送）を使用して、アプリケーションの障害を処理します。ただし、CTI ルートポイントのパターンが 5XXX である場合は、5XXX という転送先を設定できません。この制限を解決するために、コール転送の宛先に X 文字を設定できるようになりました。

次の例では、Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションに対する、リリース 4.0 より前の（ダイナミック番号分析を使用した）番号分析機能と、リリース 4.0 以降の（スタティック番号分析を使用した）番号分析機能を示しています。

リリース 4.0 より前の番号分析を使用した IPMA の例

次のように設定されているとします。

```
Partitions: IPMA, Managers, Everyone
CSS-I-E: IPMA:Everyone
CSS-M-E: Managers:Everyone
Line-1/CSS-I-E: Everyone/1000
Line-2/CSS-M-E: Manager/1001
CTI RP: IPMA/1XXX
Translation Pattern/CSS-M-E: Everyone/1XXX
```

CTI route point (RP; ルートポイント) が稼働している場合に、1000/IPMA:Everyone が 1001 をコールするとします。コールは、CTI ルートポイント *IPMA/1XXX* を使用してルーティングされます。

CTI ルートポイントがダウンしている場合に、1000/IPMA:Everyone が 1001 をコールするとします。コールは、トランスレーションパターン *Everyone/1xxx* を経由し、変換後に *Manager/1001* に到達して、IPMA アプリケーションの目的を果たします。

リリース 4.0 以降のスタティック番号分析を使用した Cisco Unified Communications Manager Assistant の例

リリース 4.0 以降で同じ設定を想定する場合、CTI ルートポイントに障害が発生した場合の処理のために、CTI ルートポイントに対して、CFNA マスクとして *1xxx* を、CFNA コーリングサーチスペースとして CSS-E を設定する必要があります。

スタティック番号分析が使用される場合は、次の処理が行われます。

- CTI RP が稼働している場合に、1000/IPMA:Everyone が 1001 をコールするとします。コールは、CTI ルートポイント *IPMA/1XXX* を介してルーティングされます（ルーティングは以前のバージョンから変わりません）。
- CTI ルートポイントがダウンしている場合に、1000/IPMA:Everyone が 1001 をコールするとします。コールは、CTI ルートポイントに送信され、その CFNA がトリガーされます。転送機能により、コールがトランスレーションパターン *Everyone/1xxx* を介してルーティングされ、変換後に *Manager/1001* に到達します。

CTI ルートポイントに CFNA を設定しないと、トランスレーションパターンが一致せず、Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションが失敗します。

表 17-3 ワイルドカードと特殊文字 (続き)

文字	説明	例
+	正符号 (+) ワイルドカードは、先行する数字またはワイルドカード値の 1 つまたは複数のオカレンスと一致します。	ルート パターン 91X+ は、910 ~ 91999999999999999999999999999999 のすべての番号をルーティングまたはブロックします。
[]	角カッコ ([]) 文字は、値の範囲を囲みます。	ルート パターン 813510 [012345] は、8135100 ~ 8135105 のすべての番号をルーティングまたはブロックします。
-	ハイフン (-) 文字は、角カッコと共に使用され、値の範囲を示します。	ルート パターン 813510 [0-5] は、8135100 ~ 8135105 のすべての番号をルーティングまたはブロックします。
^	<p>曲折アクセント (^) 文字は、角カッコと共に使用され、値の範囲を否定します。^ 文字は、左角カッコ ([]) に続く最初の文字でなければなりません。</p> <p>各ルート パターンで使用できる ^ 文字は、1 つだけです。</p>	ルート パターン 813510[^0-5] は、8135106 ~ 8135109 のすべての番号をルーティングまたはブロックします。
.	<p>ドット (.) 文字は、区切り文字として使用され、Cisco Unified Communications Manager のアクセス コードを電話番号と区別します。</p> <p>この特殊文字は、数字破棄命令と共に使用され、番号を隣接システムに送信する前に Cisco Unified Communications Manager のアクセス コードを除去します。</p> <p>各ルート パターンで使用できるドット (.) 文字は、1 つだけです。</p>	ルート パターン 9.@ は、NANP コールで、最初の 9 を Cisco Unified Communications Manager アクセス コードとして識別します。
*	アスタリスク (*) 文字は、特殊なダイヤル番号の補足数字として使用できます。	ルート パターン *411 を設定して、電話番号案内の内部オペレータにアクセスできます。
#	<p>シャープ (#) 文字は、一般に、ダイヤル数字列の末尾を指定します。</p> <p># 文字は、パターン内の最後の文字にする必要があります。</p>	ルート パターン 901181910555# は、NANP 内からダイヤルされた国際番号をルーティングまたはブロックします。最後の 5 の後の # 文字は、この数字が数字列の最後の数字であることを示します。

表 17-4 では、ルート パターンまたはハントパイロットを必要とする Cisco Unified Communications Manager の管理ページのフィールドを一覧表示し、各フィールドの有効な入力内容を示します。

表 17-4 フィールドの入力内容

フィールド	有効な入力内容
[コール パーク番号 / 範囲 (Call Park Number/Range)]	[^ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 -] X * #
[発呼側変換マスク (Calling Party Transform Mask)]	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 X A B C D * #
[着信側変換マスク (Called Party Transform Mask)]	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 X A B C D * #
[発信者 ID DN(Caller ID DN)] (ゲートウェイ)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 X * #
[電話番号 (Directory Number)]	[^ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 -] + ? ! X * # +

表 17-4 フィールドの入力内容 (続き)

フィールド	有効な入力内容
[コールピックアップグループ番号 (Call Pickup Group Number)]	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
[外線番号マスク (External Number Mask)]	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 X * #
[不在転送 (Forward All)]	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * #
[話中転送 (Forward Busy)]	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * #
[無応答時転送 (Forward No Answer)]	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * #
[ミーティング会議番号 (Meet-Me Conference Number)]	[^ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 -] X * #
[プレフィックス番号]	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D * #
[プレフィックス DN(Prefix DN)] (ゲートウェイ)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * #
ルートフィルタのタグ値	[^ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 -] X * #
[ルートパターン (Route Pattern)]	[^ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D -] + ? ! X * # + . @
[トランスレーションパターン (Translation Pattern)]	[^ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D -] + ? ! X * # + . @
[ハントパイロット]	[^ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D -] + ? ! X * # + . @

数字破棄命令

discard digits instruction (DDI; 数字破棄命令) は、電話番号の一部を削除してから、その番号を隣接システムに渡します。DDI が数字列の一部を削除する必要があるのは、たとえば、PSTN にコールをルート指定するのに外部アクセスコードが必要であるにもかかわらず、PSTN スイッチがそのアクセスコードを要求しない場合です。

表 17-5 では、DDI をリストし、ダイヤル番号に各 DDI を適用した結果について説明します。

表 17-5 数字破棄命令

DDI	結果	例
10-10-Dialing	この DDI は、次の項目を削除します。 <ul style="list-style-type: none"> IXC アクセスコード 	ルートパターン: 9.@ ダイヤルされる数字列: 910102889728135000 DDI の適用後: 99728135000
10-10-Dialing Trailing-#	この DDI は、次の項目を削除します。 <ul style="list-style-type: none"> IXC アクセスコード 国際電話のダイヤル終了文字 	ルートパターン: 9.@ ダイヤルされる数字列: 9101028801181910555# DDI の適用後: 901181910555
11/10D->7D	この DDI は、次の項目を削除します。 <ul style="list-style-type: none"> 長距離直接ダイヤルコード 長距離オペレータ経由のダイヤルコード IXC アクセスコード エリアコード ローカルエリアコード <p>この DDI は、11 桁または 10 桁のダイヤル番号から、7 桁の市内番号を作成します。</p>	ルートパターン: 9.@ ダイヤルされる数字列: 919728135000 または 99728135000 DDI の適用後: 98135000

表 17-5 数字破棄命令（続き）

DDI	結果	例
11/10D->7D Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 長距離直接ダイヤルコード 長距離オペレータ経由のダイヤルコード IXC アクセスコード エリアコード ローカルエリアコード 国際電話のダイヤル終了文字 <p>この DDI は、11 桁または 10 桁のダイヤル番号から、7 桁の市内番号を作成します。</p>	<p>ルートパターン：9.@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 919728135000 または 99728135000</p> <p>DDI の適用後：98135000</p>
11D->10D	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 長距離直接ダイヤルコード 長距離オペレータ経由のダイヤルコード IXC アクセスコード 	<p>ルートパターン：9.@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 919728135000</p> <p>DDI の適用後：99728135000</p>
11D->10D Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 長距離直接ダイヤルコード 長距離オペレータ経由のダイヤルコード 国際電話のダイヤル終了文字 IXC アクセスコード 	<p>ルートパターン：9.@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 919728135000</p> <p>DDI の適用後：99728135000</p>
Intl TollBypass	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際アクセスコード 国際直接ダイヤルコード 国番号 IXC アクセスコード 国際オペレータ経由のダイヤルコード 	<p>ルートパターン：9.@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 901181910555</p> <p>DDI の適用後：9910555</p>
Intl TollBypass Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際アクセスコード 国際直接ダイヤルコード 国番号 IXC アクセスコード 国際オペレータ経由のダイヤルコード ダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：9.@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 901181910555#</p> <p>DDI の適用後：9910555</p>
NoDigits	<p>この DDI は数字を削除しません。</p>	<p>ルートパターン：9.@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 919728135000</p> <p>DDI の適用後：919728135000</p>
Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際電話のダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：9.@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 901181910555#</p> <p>DDI の適用後：901181910555</p>

表 17-5 数字破棄命令 (続き)

DDI	結果	例
PreAt	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 899728135000</p> <p>DDI の適用後：9728135000</p>
PreAt Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • 国際電話のダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8901181910555#</p> <p>DDI の適用後：01181910555</p>
PreAt 10-10-Dialing	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • IXC アクセスコード 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8910102889728135000</p> <p>DDI の適用後：9728135000</p>
PreAt 10-10-Dialing Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • IXC アクセスコード • 国際電話のダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 89101028801181910555#</p> <p>DDI の適用後：01181910555</p>
PreAt 11/10D->7D	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • 長距離直接ダイヤルコード • 長距離オペレータ経由のダイヤルコード • IXC アクセスコード • エリアコード • ローカルエリアコード <p>この DDI は、11 桁または 10 桁のダイヤル番号から、7 桁の市内番号を作成します。</p>	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8919728135000 または 899728135000</p> <p>DDI の適用後：8135000</p>

表 17-5 数字破棄命令（続き）

DDI	結果	例
PreAt 11/10D->7D Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • 長距離直接ダイヤルコード • 長距離オペレータ経由のダイヤルコード • IXC アクセスコード • エリアコード • ローカルエリアコード • 国際電話のダイヤル終了文字 <p>この DDI は、11 桁または 10 桁のダイヤル番号から、7 桁の市内番号を作成します。</p>	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8919728135000 または 899728135000</p> <p>DDI の適用後：8135000</p>
PreAt 11D->10D	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • 長距離直接ダイヤルコード • 長距離オペレータ経由のダイヤルコード • IXC アクセスコード 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8919728135000</p> <p>DDI の適用後：9728135000</p>
PreAt 11D->10D Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • 長距離直接ダイヤルコード • 長距離オペレータ経由のダイヤルコード • IXC アクセスコード • 国際電話のダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8919728135000</p> <p>DDI の適用後：9728135000</p>

表 17-5 数字破棄命令 (続き)

DDI	結果	例
PreAt Intl TollBypass	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • 国際アクセスコード • 国際直接ダイヤルコード • 国番号 • IXC アクセスコード • 国際オペレータ経由のダイヤルコード 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8901181910555</p> <p>DDI の適用後：910555</p>
PreAt Intl TollBypass Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を含めて、ルートパターンの NANP 部分の前にあるすべての数字を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • PBX 外部アクセスコード • 国際アクセスコード • 国際直接ダイヤルコード • 国番号 • IXC アクセスコード • 国際オペレータ経由のダイヤルコード • ダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8901181910555#</p> <p>DDI の適用後：910555</p>
PreDot	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 899728135000</p> <p>DDI の適用後：99728135000</p>
PreDot Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • 国際電話のダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8901181910555#</p> <p>DDI の適用後：901181910555</p>
PreDot 10-10-Dialing	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • IXC アクセスコード 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8910102889728135000</p> <p>DDI の適用後：99728135000</p>
PreDot 10-10-Dialing Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセスコード • IXC アクセスコード • 国際電話のダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 89101028801181910555#</p> <p>DDI の適用後：901181910555</p>

表 17-5 数字破棄命令 (続き)

DDI	結果	例
PreDot 11/10D->7D	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセス コード • 長距離直接ダイヤル コード • 長距離オペレータ経由のダイヤル コード • IXC アクセス コード • エリア コード • ローカルエリア コード <p>この DDI は、11 桁または 10 桁のダイヤル番号から、7 桁の市内番号を作成します。</p>	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8919728135000 または 899728135000</p> <p>DDI の適用後：98135000</p>
PreDot 11/10D->7D Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセス コード • 長距離直接ダイヤル コード • 長距離オペレータ経由のダイヤル コード • IXC アクセス コード • エリア コード • ローカルエリア コード • 国際電話のダイヤル終了文字 <p>この DDI は、11 桁または 10 桁のダイヤル番号から、7 桁の市内番号を作成します。</p>	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8919728135000 または 899728135000</p> <p>DDI の適用後：98135000</p>
PreDot 11D->10D	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセス コード • 長距離直接ダイヤル コード • 長距離オペレータ経由のダイヤル コード • IXC アクセス コード 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8919728135000</p> <p>DDI の適用後：99728135000</p>
PreDot 11D->10D Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセス コード • 長距離直接ダイヤル コード • 長距離オペレータ経由のダイヤル コード • IXC アクセス コード • 国際電話のダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン：8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列： 8919728135000</p> <p>DDI の適用後：99728135000</p>

表 17-5 数字破棄命令 (続き)

DDI	結果	例
PreDot Intl TollBypass	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセス コード • 国際アクセス コード • 国際直接ダイヤル コード • 国番号 • IXC アクセス コード • 国際オペレータ経由のダイヤル コード 	<p>ルートパターン : 8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列 : 8901181910555</p> <p>DDI の適用後 : 9910555</p>
PreDot Intl TollBypass Trailing-#	<p>この DDI は、次の項目を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager 外部アクセス コード • 国際アクセス コード • 国際直接ダイヤル コード • 国番号 • IXC アクセス コード • 国際オペレータ経由のダイヤル コード • ダイヤル終了文字 	<p>ルートパターン : 8.9@</p> <p>ダイヤルされる数字列 : 8901181910555#</p> <p>DDI の適用後 : 9910555</p>

発信側および着信側の変換

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、Cisco Unified Communications Manager が各コール設定メッセージで送信する発信側番号と着信側番号を操作することができます。

これらの設定について、次のトピックで説明します。

- [発信側番号の変換設定値 \(P.17-29\)](#)
- [着信側番号の変換設定値 \(P.17-30\)](#)

発信側番号の変換設定値

発信側変換設定値では、発信コール用の発信側番号を操作することができます。Cisco Unified Communications Manager は、Calling Line Identification (CLID) に発信側の番号を使用します。発信コール時に、CLID は、各構内交換機 (PBX)、セントラル オフィス (CO)、および中継キャリア (IXC) に、コールの進行状況として渡されます。コールが着信側に配信されたときに、着信側で CLID を受け取ります。

ルート リストで使用される発信側変換設定は、ルート リストを構成する個々のルート グループに適用されます。ルート リスト内のルート グループに割り当てられる発信側変換設定値は、そのルート リストに関連したルート パターンに割り当てられている発信側変換設定値をすべて上書きします。

ルート グループの設定では、次の発信側変換設定値を指定することができます。

- [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]
- [発呼側変換マスク (Calling Party Transform Mask)]
- [プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]

表 17-6 では、発信側番号変換の指定に使用するフィールド、オプション、および値について説明します。

表 17-6 発信側番号の変換設定値

フィールド名	説明
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>このフィールドは、発信コールの CLID にマスクを適用しない外部電話番号が使用されるかどうかを決定します (外部番号は、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを使用して設定します)。</p> <p>[ルート リストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウの [ルート リスト詳細 (Route List Details)] パネルでメンバーをクリックすることにより、ルート グループに対して次の発信側変換設定値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: この設定値は、ルート グループが発信側外部電話番号マスクと発信側変換マスクを制御しないことを指定します。発信側外部電話番号マスクまたは変換マスクがルート パターンに対して選択される場合、このルート グループを介してルーティングされるコールは、そのマスクを使用します。 • [Off]: この設定値は、発信側の CLID に外部電話番号が使用されないことを指定します。このルート グループに対して変換マスクを入力しない場合、このグループを介してルーティングされるコールは、CLID に関連付けられません。 • [On]: この設定値は、発信側の CLID にマスクを適用しない外部電話番号が使用されることを指定します。 <p>外部電話番号マスクには、最長 24 桁を指定できます。</p>

表 17-6 発信側番号の変換設定値 (続き)

フィールド名	説明
[発呼側変換マスク (Calling Party Transform Mask)]	このフィールドは、このルート グループを介してルーティングされるすべてのコールに対して、発信側変換マスクを指定します。このフィールドの有効値は、0～9の数字、ワイルドカード文字 X、および文字 * と # です。また、このフィールドをブランクのままにすることもできます。このフィールドがブランクであり、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) が [Off] に設定されている場合、発信側番号は CLID に使用できません。 発呼側変換マスクには、最長 50 桁まで指定できます。
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	このフィールドには、このルート グループを介してルーティングされるすべてのコールについて、発信側番号に付加されるプレフィックス番号、または 1 組の [プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] が含まれます。このフィールドの有効値は、0～9の数字、文字 * と #、およびブランクです。[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] には、ルート パターンで最長 50 桁、DN で最長 24 桁を指定できます。

着信側番号の変換設定値

着信側変換設定値では、発信コール用にダイヤルする数字、つまり着信側の番号を操作することができます。着信側の番号を操作する例としては、プレフィックス番号の付加または削除 (発信コール)、7 桁の番号としてダイヤルされるコールへのエリア コードの付加、4 桁または 5 桁の内線番号としてダイヤルされるオフィス間コールへのエリア コードとオフィス コードの付加、および等価アクセス コールに対する通信事業者アクセス コードの抑止があります。

ルート リストで使用される着信側変換設定は、ルート リストを構成する個々のルート グループに適用されます。ルート リスト内のルート グループに割り当てられる着信側変換設定値は、そのルート リストに関連したルート パターンまたはトランスレーション パターンに割り当てられている着信側変換設定値をすべて上書きします。

ルート グループ、ルート パターン、およびトランスレーション パターンの設定で、次の着信側変換設定値を指定することができます。

- [番号の削除 (Discard Digits)]
- [着信側変換マスク (Called Party Transform Mask)]
- [プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]

表 17-7 では、着信側番号変換の指定に使用するフィールド、オプション、および値について説明します。

表 17-7 着信側番号の変換設定値

フィールド名	説明
[ルート パターンの設定 (Route Pattern Configuration)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>このフィールドには、数字破棄命令を制御する破棄パターンのリストが含まれています。たとえば、ユーザが PSTN（公衆電話交換網）にコールするのに、9 をダイヤルする必要があるシステムでは、PreDot 破棄パターンによって、ダイヤル数字列からその 9 が削除されます。詳細については、P.17-16 の「Closest Match ルーティング」を参照してください。</p> <p> (注) デフォルト設定である [<None>] 以外の設定は、ルートパターンの設定を上書きします。 [<None>] の設定は、「数字を破棄しない」ことを意味します。</p>
[着信側変換マスク (Called Party Transform Mask)]	<p>このフィールドは、このルート グループを介してルーティングされるすべてのコールに対して、着信側変換マスクを指定します。このフィールドの有効値は、0～9 の数字、ワイルドカード文字 X、および文字 * と # です。また、このフィールドをブランクのままにすることもできます。このフィールドがブランクの場合、変換は行われません。つまり、Cisco Unified Communications Manager は、ダイヤルされたとおりに数字を送信します。</p> <p>着信側変換マスクには、最長 50 桁まで指定できます。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>このフィールドには、このルート グループを介してルーティングされるすべてのコールについて、着信側番号に付加されるプレフィックス番号、または 1 組の [プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] が含まれます。このフィールドの有効値は、0～9 の数字、文字 * と #、およびブランクです。 [プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] には、ルートパターンで最長 50 桁、DN で最長 24 桁を指定できます。</p>

関連項目

- 特殊文字と設定値 (P.17-20)
- Closest Match ルーティング (P.17-16)
- 発信者 ID および制限 (P.17-32)
- ルートプランの概要 (P.17-1)

発信者 ID および制限

Cisco Unified Communications Manager では次のタイプの発信者 ID 情報を提供します。

- Calling Line Identification (CLID; 発信側回線 ID) : 着信側のディスプレイに発信側の内線番号または電話番号を表示する。
- Calling Name Identification (CNID; 発信名前表示) : 着信側のディスプレイに発信側の名前を表示する。
- 接続先回線 ID 表示 : 発信側のディスプレイに接続先の電話番号を表示する。
- 接続先名表示 : 発信側のディスプレイに接続先の名前を表示する。

Cisco Unified Communications Manager には、発信側と着信側の両方に対し、回線情報および名前情報の表示を許可および制限するための柔軟な設定オプションがあります。

発信者 ID の設定方法の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [発信側情報の表示設定と制限設定 \(P.17-32\)](#)
- [接続先情報の表示設定と制限設定 \(P.17-35\)](#)

発信側情報の表示設定と制限設定

発信側表示情報によって、Cisco Unified Communications Manager が発信コール用の設定メッセージと共に送信する電話番号および名前情報を表示するかどうかを制御します。Cisco Unified Communications Manager では次のフィールドを使用してこれらの補助サービスを提供します。

- [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] フィールド : calling line identification presentation (CLIP) または calling line identification restriction (CLIR)
- [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] フィールド : calling name presentation (CNIP) または calling name restriction (CNIR)

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウの [発呼者の表示 (Calling Party Presentation)] フィールドを使用して、ゲートウェイ上の発信コールすべてに CLID を表示するかどうかを制御することができます。コールごとに CLID の表示を制御するには、[ルート パターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウまたは [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウの [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] フィールドを使用します。



(注)

コール表示制限を設定するには、[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] と [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] を [プレゼンテーション インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] デバイスレベルパラメータと組み合わせて設定してください。同時に、これらの設定では、各コールの発信側と接続先の両方またはいずれか一方の回線表示情報を選択的に表示またはブロックできます。[プレゼンテーション インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] フィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプロファイルの設定」の章および「Cisco Unified IP Phone の設定」の章を参照してください。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。

次の例で、発信側回線 ID 表示の機能について説明します。ユーザがコールを行うと、Cisco Unified Communications Manager はダイヤルされた番号がトランスレーションパターンと一致するかどうかをチェックします。Cisco Unified Communications Manager が一致を見つけて、表示インジケータにトランスレーションパターン [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] フィールドの値を設定します。この例では [Restricted] に指定されています。次に、Cisco Unified Communications Manager は、ダイヤル番号に設定されたルートパターン上で一致をチェックして見つけます。Cisco Unified Communications Manager は [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] フィールドをチェックして、この値に [Default] が指定されていることを確認します。[Default] が設定されている場合、前の設定は変更されないため、表示インジケータは [Restricted] のままになります。

ゲートウェイの [発呼者の表示 (Calling Party Presentation)] フィールドが最後に確認されます。この例で、値は [Allowed] に指定されており、前の [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] インジケータを上書きして発信側番号が着信側の電話機に表示されるようにします。したがって、[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] フィールドのインジケータは、発信側でコールを開始したときの [Restricted] から変更されて、Cisco Unified Communications Manager がコール設定メッセージをエンドポイントデバイスへ送信するまでに [Allowed] となります。

[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ページまたは [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ページを使用すると、発信コールおよび着信コールについて、回線と名前の表示または制限をコールごとに設定することができます。

ゲートウェイについては、発信コール用に発信側回線 ID 表示だけを設定できます。着信コールに対しては、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイの [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] フィールドを使用して、接続先の番号を発信側の電話機に表示するか、または制限するかを指定します。ゲートウェイ設定が適用されるのはこれら 2 つの場合だけで、この設定はその他の設定をすべて上書きします。ゲートウェイについては、発信側および接続先の回線表示だけを設定できます。ゲートウェイ上の名前表示を制御する設定はありません。

コールを処理するデバイス コントロール プロトコルのタイプによって、発信者の名前および番号情報が制限されます。プロトコルと、サポートされている発信者の名前および番号情報のリストについては、表 17-10 を参照してください。



(注)

非 QSIG トランクに対する名前表示を制御するには、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで [IE 配信を表示 (Display IE Delivery)] フィールドまたは [ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name In Facility IE)] フィールドを使用可能にする必要があります。

表 17-8 では、発信側表示の指定に使用するフィールド、オプション、および値について説明します。

表 17-8 発信側の表示設定

フィールド名	説明
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] (発信コール) または [発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>このフィールドは、発信側電話番号を着信側の番号表示画面に表示するかどうかを決定します。[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] フィールドは、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウ、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウ、および [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで使用されます。</p> <p>次のリストは、このフィールドのオプションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : [Default] を設定すると、発信側回線 ID 表示は変更されません。 • [Allowed] : この設定を使用すると、発信側電話番号が着信側の番号表示に表示されます。 • [Restricted] : この設定を使用すると、着信側の番号表示に「非通知」と表示され、発信側電話番号の表示がブロックされます。
[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] (発信コール)	<p>このフィールドは、発信側の名前を着信側の番号表示に表示するかどうかを決定します。[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] フィールドは [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウおよび [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで使用されます。</p> <p>次のリストは、このフィールドのオプションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : [Default] を設定すると、発信側の名前表示は変更されません。 • [Allowed] : この設定を使用すると、発信側の名前が着信側の番号表示に表示されます。 • [Restricted] : ルートパターン設定またはトランスレーションパターン設定でこの設定を使用すると、着信側の番号表示に「非通知」と表示されます。 <p> (注) ゲートウェイには発信側名前表示に関する設定がありません。</p>
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] (着信コール)	<p>着信コールがトランスレーションパターンまたはルートパターンを経由し、[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] が [Allowed] または [Restricted] に設定されている場合、発信側の回線表示はトランスレーションパターンまたはルートパターンの設定で変更されます。Cisco Unified Communications Manager システムに到達したコールが PBX または PSTN へ送信される場合は、発信コールの規則が適用されます (P.17-32 の「発信側情報の表示設定と制限設定」を参照)。</p> <p> (注) ゲートウェイの [発呼者の表示 (Calling Party Presentation)] 設定は発信コールだけを制御します。</p>

表 17-8 発信側の表示設定 (続き)

フィールド名	説明
[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] (着信コール)	着信コールがトランスレーション パターンまたはルート パターンを経由し、[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)]が[Allowed]または[Restricted]に設定されている場合、発信側の名前表示はトランスレーション パターンまたはルート パターンの設定で変更されます。Cisco Unified Communications Manager システムに到達したコールが PBX または PSTN へ送信される場合は、発信コールの規則が適用されます (P.17-32 の「発信側情報の表示設定と制限設定」を参照)。
	 (注) ゲートウェイには名前情報を制御する設定がありません。

接続先情報の表示設定と制限設定

接続先表示情報によって、Cisco Unified Communications Manager が着信コールと共に受信する電話番号および名前情報を表示するかどうかを制御します。Cisco Unified Communications Manager では次のフィールドを使用してこれらの補助サービスを提供します。

- [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] フィールド: connected line identification presentation (COLP) または connected line identification restriction (COLR)
- [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] フィールド: connected name presentation (CONP) または calling name restriction (CONR)

接続先設定により、接続先の電話番号および名前を発信側電話機に表示することを許可または制限することができます。[トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウおよび [ルート パターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウにこれら 2 つの設定が用意されています。コールが Cisco Unified Communications Manager および終端側の電話機に接続された後、発信側は接続先の名前情報を受信します。

次の例で接続先回線 ID の機能について説明します。Cisco Unified Communications Manager は着信コールを受信すると、その着信番号にトランスレーションパターンが設定されているかどうかを確認します。Cisco Unified Communications Manager は [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] フィールドの値を使用します。この例では [Restricted] に指定されています。次に、ルートパターンが着信コール用に設定されている場合は、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] フィールドの値を確認します。この例で値は [Default] です。したがって、インジケータは [Restricted] のままになり、接続先の番号は発信側電話機に表示されません。

着信コールに対してだけ、ゲートウェイの [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] フィールド値を最後に確認します。この例では [Allowed] に設定されています。ゲートウェイ設定は、接続先の番号を発信側電話機に表示できるかどうかを指定します。この場合、Cisco Unified Communications Manager は CONNECT メッセージ内で [Allowed] を送信して、発信者の番号表示画面に接続先回線を表示できるようにします。

[ルート パターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウまたは [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウを使用すると、発信コールおよび着信コールについて、接続先回線および名前の表示または制限をコールごとに設定することができます。

ゲートウェイ上の着信コールに対しては、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] フィールドを使用して、接続先の番号を発信側電話機に表示するか、または制限するかを指定します。ゲートウェイ設定は回線表示設定だけに適用され、その他の設定をすべて上書きします。



(注) ゲートウェイについては、発信側および接続先の回線表示オプションだけを設定できます。ゲートウェイでの名前表示に関する設定はありません。

コールがトランスレーションパターンまたはルートパターンを通じてルーティングされ、接続先回線の表示が許可されている場合、Always Display Original Dialed Number サービスパラメータが [True] に設定されていない限り、電話機は接続先番号表示を変更された番号に更新します。この設定が [True] である場合、発信側の電話機には、コールが継続している間のみ、ダイヤル番号が表示されます。このオプションをサポートしているのは SCCP 電話機のみです。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「Call Display Restrictions 機能」を参照してください。

表 17-9 では、接続先表示の指定に使用するフィールド、オプション、および値について説明します。

表 17-9 接続先の表示設定

フィールド名	説明
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] (発信コール)	<p>[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウおよび [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、このフィールドは発信側の番号表示に接続先の番号を表示するかどうかを決定します。</p> <p>次のリストは、このフィールドのオプションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : [Default] を設定すると、接続先回線 ID 表示は変更されません。 • [Allowed] : この設定を使用すると、Cisco Unified Communications Manager がプロトコルメッセージで受信した接続先回線番号が発信側の番号表示画面に表示されます。 • [Restricted] : この設定を使用すると、接続先番号が発信側の番号表示に表示されなくなり、代わりに「不明な番号」と表示されます。 <p> (注) この設定は内部コールと QSIG 接続でのコールだけに適用されます。</p>
[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] (CONP/CONR) (発信コール)	<p>このフィールドは、接続先の名前を発信側の番号表示に表示するかどうかを決定します。[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] フィールドは [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウおよび [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで使用されます。</p> <p>次のリストは、このフィールドのオプションを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : [Default] を設定すると、発信側の名前表示は変更されません。 • [Allowed] : この設定を使用すると、Cisco Unified Communications Manager がプロトコルメッセージで受信した接続先の名前が発信側の番号表示に表示されます。 • [Restricted] : この設定を使用すると、発信側の番号表示で、接続先名は表示されずに「不明な番号」と表示されます。

表 17-9 接続先の表示設定 (続き)

フィールド名	説明
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] (着信コール)	<p>着信コールがトランスレーションパターンまたはルートパターンを経由し、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] が [Allowed] または [Restricted] に設定されている場合、接続先の回線表示インジケータはトランスレーションパターンまたはルートパターンの設定で変更されます。</p> <p> (注) ゲートウェイの [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] 設定は、接続先の番号を発信側の電話機に表示できるかどうかを決定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager システムに到達したコールが PBX または PSTN へ送信される場合は、発信コールの規則が適用されます (P.17-35 の「接続先情報の表示設定と制限設定」を参照)。</p>
[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] (着信コール)	<p>着信コールがトランスレーションパターンまたはルートパターンを経由し、[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] が [Allowed] または [Restricted] に設定されている場合、接続先の名前表示はトランスレーションパターンまたはルートパターンの設定で変更されます。Cisco Unified Communications Manager システムに到達したコールが PBX または PSTN へ送信される場合は、発信コールの規則が適用されます (P.17-35 の「接続先情報の表示設定と制限設定」を参照)。</p> <p> (注) ゲートウェイには名前情報を制御する設定がありません。</p>

Cisco Unified Communications Manager のデバイスコントロールプロトコルによる発信者 ID サポート

Cisco Unified Communications Manager では、コールを処理するデバイスコントロールプロトコルに基づいて、発信者の名前および番号を表示します。すべてのデバイスプロトコルがプロトコルメッセージで発信者番号および名前の情報を提供するわけではありません。表 17-10 は、発信者 ID サービスをサポートするプロトコルをまとめたものです。

表 17-10 デバイスコントロールプロトコルがサポートする発信者 ID 情報

デバイスコントロールプロトコル	発信側回線	発信側名	接続先回線	接続先名
SCCP を使用する IP Phone	回線番号を提供	DN に関連付けられている名前を提供	受信時に番号を表示	受信時に名前を表示
MGCP ステーション (FXS)	回線番号を提供	DN に関連付けられている名前を提供	サポートなし	受信時に名前を表示
MGCP トランク (FXO、T1 CAS)	サポートなし	サポートなし	サポートなし	サポートなし
H.323 トランク	H.225 SETUP で送信される発信側回線	クラスタ間トランクのみ、H.225 メッセージ内の DISPLAY IE を使用してサポート	クラスタ間トランクのみ、H.225 NOTIFY でサポート	クラスタ間トランクのみ、H.225 メッセージ内の DISPLAY IE でサポート

表 17-10 デバイスコントロールプロトコルがサポートする発信者 ID 情報 (続き)

デバイスコントロールプロトコル	発信側回線	発信側名	接続先回線	接続先名
PRI トランク	PRI SETUP 内の発信側回線	PRI メッセージ内の FACILITY IE を使用してサポート	サポートなし	PRI メッセージ内の FACILITY IE を使用してサポート
QSIG トランク	QSIG SETUP 内の発信側回線	QSIG メッセージ内の FACILITY IE を使用してサポート	QSIG CONNECT でサポート	QSIG メッセージ内の FACILITY IE を使用してサポート
SIP トランク	From ヘッダーおよび Remote-Party-ID ヘッダーに含まれる発信側回線	From ヘッダーおよび Remote-Party-ID ヘッダーに含まれる発信側名	Remote-Party-ID ヘッダーに含まれる接続先回線	Remote-Party-ID ヘッダーに含まれる接続先名

関連項目

- [発信側および着信側の変換 \(P.17-29\)](#)
- [特殊文字と設定値 \(P.17-20\)](#)
- [拡張されたコール識別サービス \(P.42-13\)](#)

ルートプランレポート

ルートプランレポートには、システム内のすべての未割り当て電話番号 (DN)、コールパーク (転送先保留) 番号、コールピックアップ番号、会議番号 (ミーティング番号)、電話番号、ルートパターン、トランスレーションパターン、ボイスメールポート、メッセージ受信のインジケータ、およびコンソール番号のリストが含まれています。

ルートプランレポートを使用すると、ルートパターン、パーティション、ルートグループ、ルートリスト、電話番号、コールパーク (転送先保留) 番号、コールピックアップ番号、会議番号 (ミーティング番号)、またはゲートウェイを選択することにより、リストの一部または全部を表示したり、関連する設定ウィンドウに直接進んだりすることができます。

ルートプランレポートを使用して、未割り当ての電話番号リストを取得し、必要に応じてこれらの番号を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除することができます。

さらに、ルートプランレポートを使用して .csv ファイルにレポートデータを保管し、他の一括管理ツール (BAT) などのアプリケーションにインポートすることもできます。この .csv ファイルには、電話機の電話番号 (DN)、ルートパターン、トランスレーションパターンを含めて、詳しい情報が入っています。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートプランレポート」の章を参照してください。

参考情報

関連項目

- [パーティションおよびコーリング サーチ スペース \(P.15-1\)](#)

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリング サーチ スペースの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルート グループの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルート リストの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルート パターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「回線グループの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ハント リストの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ハント パイロットの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」
- 『Cisco Unified Communication ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン (SRND) Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーションガイド』

